

人文社会学部教員による 学生のための推薦図書等リスト

東京都立大学 人文社会学部

人文社会学部の教員が推薦する図書等のリストです。本学ウェブサイト上の「オープンキャンパス授業」や「ミニ講義」と併せて紹介されていたり、図書に解説が付されているものもありますので適宜ご参照ください。

【人間社会学科】

[社会学教室]

宮台 真司 教授

- ・ 推薦図書：新井紀子 『A I vs.教科書が読めない子どもたち』 2018年
<https://amzn.to/33bU0Ma>
 - ・ 推薦図書：郡司ペギオ幸夫 『やってくる』 2020年 <https://amzn.to/3kZNXjz>
 - ・ 推薦図書：宮台真司 『14歳からの社会学』 2008年 <https://amzn.to/3nQ9gX0>
 - ・ 推薦映画：スパイク・ジョーンズ監督『Her 世界にひとつの彼女』 2014年
<https://www.youtube.com/watch?v=2Hh3ZMoMGSU>
 - ・ 推薦映画：アレックス・ガーラント監督『エクス・マキナ』 2016年
https://www.youtube.com/watch?v=25S7oRU_j3A
- ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/hss/12709.html>
- ・ 「見えないコミュニティ」が、優秀な人材を育てる
 - ・ コンピュータと恋愛する時代がやってくる？

不破 麻紀子 教授

- ・ 推薦図書：伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学〔全訂新版〕』世界思想社 2015年

解説：社会学は幅広い分野を研究対象とする学問ですが、近年日本でもジェンダーをめぐる問題について関心が高まっており、「ジェンダー」は社会学でも注目されている研究分野の一つです。本書はジェンダーをめぐる問題を社会的アプローチからとらえていこうとするもので、育つ・学ぶ・語る・恋愛する・家族する・働くなどの身近なテーマやグローバル化の中の人々の移動などを切り口に、ジェンダーが人々の日々の生活に強固に組み込まれていることを示しています。

[社会人類学教室]

石田 慎一郎 准教授

- ・ 推薦図書：鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
- ・ 推薦図書：鶴見良行『バナナと日本人』岩波新書
- ・ 推薦図書：川田順造『無文字社会の歴史』岩波現代文庫
- ・ 推薦図書：クライスト（手塚富雄訳）『こわれがめ』岩波文庫

ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/hss/4313.html>

- ・ 人類学に必要な不可欠な、三つのアプローチ
- ・ 人類学的な見地で「法」を観察すると

[社会福祉学教室]

阿部 彩 教授

- ・ 推薦図書：阿部彩『子どもの貧困－日本の不公平を考える』岩波新書

ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/hss/13209.html>

- ・ 「格差」をなくすには、まず「貧困」への意識を変えること

和気 純子 教授

- ・ 推薦図書：直井道子・中野いく子・和気純子編『高齢者福祉の世界』（補訂版）有斐閣
2014年

ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/hss/14686.html>

- ・ 高齢者福祉のカギを握る「地域包括ケア」とは？
- ・ 世界が「高齢化」する中で、日本が果たすべき役割と課題

矢嶋 里絵 教授

- ・ 推薦図書：矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静編著『社会保障裁判研究
～現場主義・創造的法学による人権保障』ミネルヴァ書房 2021年

解説：単なる判例分析に留まらない人権保障のための学問のあり方を、著者たちの裁判活動を含む研究活動をもって示した1冊です。

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b577557.html>

長沼 葉月 准教授

- ・ 推薦図書：坪洋一・金子充・室田信一『問いからはじめる社会福祉学—不安・不利・不信に挑む』 有斐閣 2016年
- ・ 推薦図書：大野更紗『困ってるひと』 ポプラ文庫 2012年
- ・ 推薦図書：上岡陽江・大嶋栄子『その後の不自由—「嵐」のあとを生きる人たち（シリーズ ケアをひらく）』 医学書院 2010年
- ・ 推薦漫画：柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（連載中）小学館
 解説：福祉やソーシャルワークについて全くイメージがわからないという方へ。まずは物語を通じて考えていただきたいです。貧困やうつ、トラウマ、依存症等からくる困難、家族の問題等、様々な福祉課題について考えたり、人が人を支援するということの難しさとやりがい、人を支える制度の重要性と使いづらさ等、さまざまな観点に触れることができます。

[心理学教室]

下川 昭夫 教授

- ・ 推薦図書：小此木啓吾、1979、『対象喪失—悲しむということ』、中公新書、¥748
 ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/hss/15290.html>
 - ・ 課題のある子どもたちを、コミュニティの力で支えよう
 - ・ 「中1ギャップ」を埋めるための、「コミュニティ臨床」とは？

石原 正規 准教授

- ・ 推薦図書：『錯覚の心理学』（講談社現代新書）
https://www.amazon.co.jp/dp/4061492330/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_dUETFb6ZFEKFC
 ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/hss/6713.html>
 - ・ 「潜在意識」が人間の行動を左右する
 - ・ 実験心理学は、「人間らしさとは何か」を考える学問

[教育学教室]

杉田 真衣 准教授

- ・ 推薦図書：安田夏菜『むこう岸』 講談社、2018年。
 オープンキャンパス模擬授業：いま「大人になる」とはどういうことか
<https://ocw.tmu.ac.jp/courses/35/119>
<https://ocw.tmu.ac.jp/courses/35/119?num=1>
<https://ocw.tmu.ac.jp/courses/35/119?num=2>

[言語科学教室]

保前 文高 教授

- ・ 推薦図書：『心を生みだす遺伝子』 岩波現代文庫

著者 ゲアリー・マーカス 著，大隅 典子 訳

通し番号 学術234

ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/hss/4311.html>

- ・ 赤ちゃんの脳から、言葉の獲得への道筋を考える
- ・ 人が言葉を発する直前の脳の働きを解明する

[日本語教育学教室]

浅川 哲也 教授

- ・ 推薦図書：浅川 哲也（2011）『知らなかった！日本語の歴史』東京書籍

解説：日本語が世界の中の言語として、いかに位置づけられる言語であるかについて解説する。日本語の音声学と音韻論について日本史の時代別に解説する。『万葉集』『源氏物語』『天草版伊曾保物語』などの資料が、当時、実際にどのような発音で読まれていたかを実証的に復原し、古代日本語の音韻が、どのような形で、今なお、現代日本語の音韻と表記（現代仮名遣い）に影響を与え続けているかを豊富な資料を使って検討する。また、日本語の歴史的な変化が、現代日本語に多くの問題をもたらしている事実を指摘し、日本語の誤用問題とどのように向き合うべきかについて考察する。

西郡 仁朗 教授

- ・ 推薦図書：宮崎里司・西郡仁朗・神村初美・野村愛編『外国人看護・介護人材とサステイナビリティ ―持続可能な移民社会と言語政策』くろしお出版

解説：持続可能性を研究トピックとするサステイナビリティ学は、持続可能な地球社会へ向け、グローバルなビジョンを構築する基礎として提唱された。本書は、今後最もダイバーシティ化する領域の一つである介護・看護分野に就く外国人従事者(EPA、技能実習生、特定技能、留学生、介護ヘルパーなど)に対し、どのような医療福祉政策や日本語教育が必要とされるのかを、持続可能性を基軸に活動実践と政策の両面から探るものである。

【人文学科】

[哲学（哲学・西洋古典学）教室]

岡本 賢吾 教授

- ・ 推薦図書：野矢茂樹（2006）『入門！論理学』中公新書 税込814円
- ・ 推薦図書：飯田隆編（2007）『哲学の歴史11－論理・数学・言語』中央公論新社 3,960円

ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/4846.html>

- ・ 哲学的な考え方をすると、世界はまるで変わって見える
- ・ 数学と哲学の間には、実は密接な関わりがある

栗原 裕次 教授

- ・ 推薦図書：プラトン『ソクラテスの弁明』光文社古典新訳文庫2012年
解説：紀元前399年にギリシア・アテネの哲学者ソクラテスは、新しい神を導入し若者を墮落させた罪で訴えられ、死刑判決を受けました。本書は、ソクラテスの弟子のプラトンがその裁判の様子を描いたものです。裁判の中でソクラテスは無罪を主張しますが、そのポイントは「自分は哲学をただけだ」というものです。哲学者として生きてきたために死刑にされるとはどういうことか。哲学とは何なのか。読者はソクラテスの生と死の狭間で哲学の本質と出会うことなのでしょう。
- ・ 推薦図書：プラトン『国家』（上・下）岩波文庫1979年
解説：プラトンは本書で理想的な国家のあり方を描きました。それは、各人が自分自身の能力にあった仕事を果たすという「正義」が成り立っている国家です。しかしプラトンは同時に、人間を国家への貢献とは関係なく、自分の魂のよいあり方を「正義」とみなし、正しい魂をもって生きている人を幸福な人だと証明します。「いかに生きるべきか」を真剣に考えたい人には、ぜひ手にとって自分なりの読解を目指してほしい古典作品です。
- ・ 推薦図書：伊藤邦武他（編）『世界哲学史1』ちくま新書2020年
解説：本書は別冊も含めて9巻からなる『世界哲学史』シリーズの最初の巻です。本シリーズは、古代ギリシアに起源をもつ哲学を、世界全体の中で捉え直して、歴史的に関連づけながら総合的に理解しようと挑みます。地球上の各地で、世界に対する驚きや人間の不思議さが知的好奇心を呼び醒まし、大切なことについて純粹に知ることを愛し求めるようになった「始まり」が、各執筆者の観点から丁寧に説明されています。大学の知とは何かを考える手引きとなるでしょう。

[歴史学・考古学教室]

出穂 雅実 准教授

- ・ 推薦図書：海部陽介 著 『日本人はどこから来たのか？』 文藝春秋社 2016年刊行

ミニ講義：

<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/11663.html>

- ・ 日本列島に最初に渡来した現生人類とは？
- ・ 2万数千年前に、シベリアと北海道の交流があった！

大貫 俊夫 准教授

- ・ 推薦図書：ウィンストン・ブラック／大貫俊夫監訳『中世ヨーロッパ ファクトとフィクション』 平凡社、2021年

解説：本書は「中世は暗黒時代だった」「中世の人々は地球は平らだと思っていた」

「中世の教会は科学を抑圧していた」など11のフィクションをとりあげ、それぞれについて、フィクションの成り立ちとそれを支える史料的根拠、実際に起きたこととそれを支える史料的根拠を提示する。「暗黒の中世」史観の成り立ちを学説史として把握しつつ、史料を検討して事実として言えるのはここまで、と線引きを行うことはまさに歴史学の醍醐味。本書でその意義と愉悦を堪能できるだろう。

- ・ 推薦図書：阿部謹也『ハーメルンの笛吹き男』 ちくま文庫、1988年

解説：グリム童話の「ハーメルンの笛吹き男」は、13世紀のドイツの一都市で実際に起こった出来事に基づいている。本書は、多くの謎をはらむこの事件に接近することで、中世都市の経済・社会、東方植民運動、子供十字軍、被差別民、貧困などの問題に深く立ち入る。

前田 弘毅 教授

- ・ 推薦図書：チャールズ・キング／前田弘毅監訳『黒海の歴史』 明石書店、2017年

解説：有史以来、文明と野蛮の物語が交錯する舞台となってきた「黒海」。民族、国民、そして歴史をめぐるそのリアリティをえぐり、モンゴルから、地中海世界までも視野に入れ、ユーラシアの諸政体がぶつかり合う地政学上の要衝・環黒海地域の複雑なダイナミズムを本書は描き出す。謎に満ちた誕生時から陸域と海域世界をつなぐ小宇宙としての黒海の歴史は、さまざまな逆説に満ちた世界であり、万華鏡のように人類史を鮮やかに浮かび上がらせる。

[表象文化論教室]

三宅 昭良 教授

- ・ 推薦図書：ソートン・ワイルダー著 『わが町』 鳴海四郎訳 ハヤカワ演劇文庫 早川書房 (1,100円(税込み))2007年。

ミニ講義：

<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/14585.html>

- ・ モダニズム文学の中で、過去の作品が「引用」された理由とは？
- ・ 古代から人々の心を取りこにしてきた「演劇」の魅力とは？

古永 真一 准教授

- ・ 推薦図書：ジョルジュ・バタイユ、『エロティシズム』(酒井健訳)、ちくま学芸 文庫、筑摩書房、2004年。

ミニ講義：

<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/11715.html>

- ・ 「男らしさ」って何だろう？「自分らしさ」って何だろう？
 - ・ こんなにも違う！「戦争」の描かれ方
- ・ 推薦図書：ジークムント・フロイト、『エロス論集』(中山元訳)、ちくま学芸文庫、筑摩書房、1997年。

解説：表象文化論教室では、作品を読み解く理論を学ぶ一環として、精神分析の授業を開講しています。精神分析といえばフロイトです。「去勢コンプレックス」や「男根期」といったおどろおどろしい用語には抵抗を覚えるかもしれませんが、この本には、訳者のわかりやすい解説もついており、エロスと社会に関するフロイトのユニークな思想に触れることができます。

福田 貴成 准教授

- ・ 推薦図書：門林岳史・増田展大編『クリティカル・ワード メディア論--理論と歴史から〈いま〉が学べる』、フィルムアート社、2021年。

解説：テレビ番組からSNS上の多様なコンテンツに至るまで、身のまわりの表象文化について考えるとき、その経験を支えるメディアの存在を無視することはできません。そのメディアなるものを思想的な対象として扱う学問分野がメディア論です。この著作は、メディア論のはじまりから最新動向まで幅広くおさえた入門書です。さまざまな今日的イシューとメディアの関連を論じる「理論編」、メディア論の系譜をたどる「系譜編」、メディア技術の来歴を訪ねる「歴史編」の三部構成。ぜひ興味の湧いた項目から目を通してみてください。

[日本文化論教室]

大島 資生 教授

- ・ 推薦図書：窪園晴夫(2011)『数字とことばの不思議な話』 岩波ジュニア新書 税込902円

ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/4312.html>

- ・ 私たちは日本語のきまりや仕組みをすでに知っている
- ・ 実例で読み解く日本語文法のおもしろさ

[中国文化論教室]

佐々木 睦 教授

- ・ 推薦図書：杉原たく哉『アジア図像探検』（2020年，集広舎）、2,420円
- ・ 推薦図書：武田雅也『中国のマンガ〈連環画〉の世界』（2017年，平凡社）、3,850円
- ・ 推薦図書：武田雅也『西遊記:妖怪たちのカーニヴァル』（2019年，慶應義塾大学出版会）、2,200円

ミニ講義：

<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/13303.html>

- ・ 児童雑誌から垣間見える、中国社会の移り変わり
- ・ マンガやアニメの中に流れる中国人の精神

荒木 典子 准教授

- ・ 推薦図書：今野真二 2009『振り仮名の歴史』 集英社新書、本体700円＋税

ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/4728.html>

- ・ 昔の日本人は、中国から伝わった書物をどうやって読んだのか？
- ・ 現代中国語の知識だけでは読めない、中国の「白話小説」とは？

[英語圏文化論教室]

安井 マイケル 准教授

- ・ 推薦図書：F. スコット・フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』（村上春樹の翻訳）1,100円(税込み)2006年

ミニ講義：<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/7809.html>

- ・ 文学は「まねること」から生まれる！？
- ・ 欧米文学を学ぶことは「生きる力」にもなる

中村 英男 教授

- ・ 推薦図書：チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』 佐々木徹訳 河出文庫

解説：紳士になりたい。イギリス19世紀はそういう欲望が渦巻いていた世界でした。姉に虐待されながら育ったピップはある時、匿名の人物から紳士になる教育費用の申し出を受けます。実の姉の虐待から守ってくれようとした善意の義理の兄を見捨てるように、ピップは紳士になることを夢見てロンドンへと向かいます。ある意味でイギリス人が共有する精神世界が描かれていると思います。読んでみてください。

- ・ 推薦アプリ: BBC SOUNDS、BBC NEWS

解説：スマホで英語の世界を堪能できるので、紹介します。BBC SOUNDSの方はイギリスBBCのラジオ番組すべて聞くことができます。おすすめはRADIO 4 知的な番組やニュースを聞くことができます。クラシックが好きな方はRADIO3を聞いてみてください。おすすめは夕方からやっているESSENTIAL CLASSICS。BBC NEWSアプリはニュースを読むこと、ビデオを見ることができます。自分の知りたいニュースを登録できます。なお、これらアプリがなくともニュースもラジオもパソコンでHPから視聴可能です。

- ・ 推薦 HP：ブリティッシュライブラリ

<https://www.bl.uk/discovering-literature>

解説：ブリティッシュライブラリは、日本の国会図書館の原型のようなものです。そのHPで英文学についての解説や講義を視聴できます。ビデオ講義にはトランスクリプトがついており、英語の聞き取りの練習にもなるでしょう。テーマや作品ごとに読むことが出来るエッセイもあります。一度訪れて自ら探検してみてください。

- ・ 推薦 Youtube チャンネル: ナショナル・ギャラリー

<https://www.youtube.com/watch?v=paA8hqqQ-w>

解説：ナショナル・ギャラリーはイギリスを代表する美術館です。上記アドレスはYoutube上のこの美術館の番組の一つで、ナショナル・ギャラリーが所蔵する有名なホルバインの「大使たち」という絵のガイドツアーです。英語字幕付き。この他にも、この美術館が所有する著名な絵画に関するいろいろな番組がありますので、探索してみてください。

[ドイツ語圏文化論教室]

園田 みどり 教授

- ・ 推薦図書：フランツ・カフカ『変身』角川文庫、新潮文庫、岩波文庫（『変身/断食芸人』）、光文社古典新訳文庫（『変身/掟の前で』）他。
解説：プラハ生まれのカフカの代表作。
- ・ 推薦図書：ヘルマン・ヘッセ『デミアン』新潮文庫、岩波文庫、『デーミアン』光文社古典新訳文庫他。
解説：ノーベル文学賞受賞作家ヘルマン・ヘッセの数ある青春小説のなかの一作。
- ・ 推薦図書：ミヒャエル・エンデ『モモ』岩波少年文庫。
解説：ミヒャエル・エンデの代表的な児童文学作品。

ミニ講義：

<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/18948.html>

- ・ 「文学」は、時代を超えて心を揺さぶるもの
 - ・ 支配関係をもくつがえす「文学」の力
-
- ・ 推薦図書：岡田暁生著『西洋音楽史』中公新書2005年。
解説：バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなど多くのドイツ語圏の作曲家が名を連ねる、いわゆるクラシック音楽を中心として、音楽の始まりから20世紀以降の劇的な変化までの流れを概観します。西洋音楽についてさまざまな知識が得られ、その「聴きどころ」も学べます。著者のいうように「一種のヨーロッパの観光ガイド」として読んでもいいかもしれません。音楽を通してヨーロッパ文化に触れ、親しむことのできる一冊です。

福岡 麻子 准教授

- ・ 推薦図書：多和田葉子『エクソフォニー 母語の外へ出る旅』岩波書店 2003年。岩波現代文庫に文庫版があります。
解説：多和田葉子はドイツに住み、日本語とドイツ語の両方で創作する作家です。しかし、このエッセイ集は、「だから日本語（母語）とドイツ語（その外）の話」というわけではありません。むしろ、母語の「外」はイコール「外国語」では必ずしもないこと、母語で書くことそれ自体が「母語の外」を持ちうることに気づかされ、雲が晴れるような爽快感を得られるエッセイ集です。
- ・ 推薦図書：近藤孝弘『自国史の行方 オーストリアの歴史政策』名古屋大学出版会 2001年。
解説：第二次世界大戦後、オーストリアは「ナチスの第一の『犠牲者』」として再出

発を果たしました。しかし1980年代になると、オーストリアは単に「犠牲者」だと本当にいえるのか、という議論が盛んになります。本書は、2000年代へと至るこの議論の展開を、とりわけ歴史教科書の記述の変遷を詳細にみながら追ったものです。その内容だけでなく、細かな調査と考察の積み重ね（＝研究）が結論を導いていくさまに、読み応えがあります。

- ・ 推薦図書：チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ（くぼたのぞみ訳）『男も女もみんなフェミニストでなきゃ』河出書房新社 2017年。

解説：学生の頃、化粧をしないという友人に、別の友人が「彼氏がいいって言ってくれるならいいよね」と言うのを聞いて、驚いたことがあります。女性は自分で決めてはいけないのか、男性が「決める」「教える」性だというのはどこからくるのか。

「フェミニズム」は「女性中心」で他の性を排除することではなく、女性も「決めて」よい、尊厳をもつ性だということを真面目に考えることで、それはあらゆるジェンダーの尊厳を真面目に考えることとセットです。本書の原題も”We Should All Be Feminists”。「男」「女」に限定されない、あらゆるジェンダーがこのweを形成しています。

金 志成 准教授

- ・ 推薦図書：フランク・リースナー著『私は東ドイツに生まれた：壁の向こうの日常生活』（清野智昭監修、生田幸子訳）東洋書店2012年

解説：監視社会、物資不足、ベルリンの壁……今は亡き東ドイツという国にはとにかくネガティブなイメージが付きまとうが、実際には多くの人々が普通の生活を送っていた。本書では、ファッションや車やスポーツといった「壁の向こうの日常生活」について、東ドイツで生まれ育った著者ならではの視点で生き活きと描き出される。

- ・ 推薦図書：三島憲一著『戦後ドイツ』岩波新書1991年

解説：廃墟から出発した戦後のドイツは、ナチスの過去や東西分裂といった問題を抱えながらも、驚異的な復興と経済成長を果たした。本書は、文学者（トーマス・マン、ヘッセ）や哲学者（ハイデガー、ハーバーマス）など著名な知識人の活動に焦点を当てながら、敗戦から再統一に至るまでの激動の歴史を克明に描く。

[フランス語圏文化論教室]

西山 雄二 教授

- ・ 推薦図書：坂本尚志『バカロレア幸福論 フランスの高校生に学ぶ哲学的思考のレッスン』

ン』 (星海社新書) ¥1,012

ミニ講義 :

<https://www.tmu.ac.jp/cooperation/tmunavi/index/hum/humanities/15306.html>

- フランスの社会・文化から学ぶ
- フランスにおける「哲学」～大学入試と「哲学する」授業～